shindaiwa

刈払機

R251-G
R251-2A
R251-2B

取扱説明書

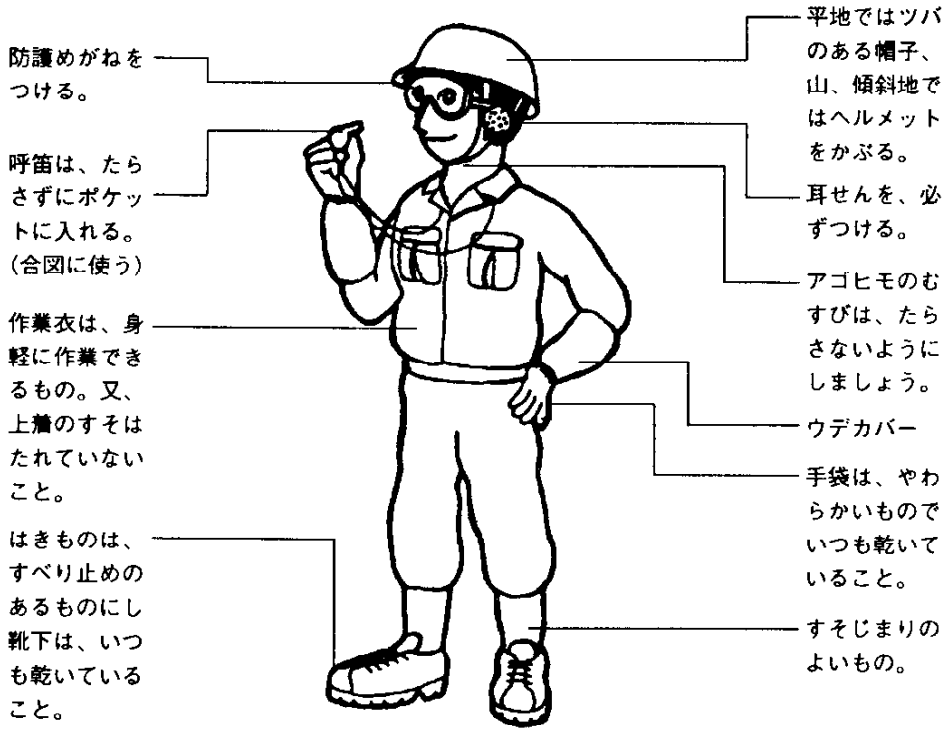
●ご使用前に必ずお読みください。

新ダイワ工業株式会社

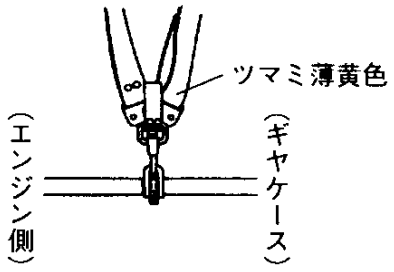
項目		頁
作業注意事項		1
安全作業のお願い		2
各部の名称		3
仕様		4
組立ての手順	エンジンの取付	5
	ハンドルの取付	6
	スロットルケーブル類の取付	7
	腰当てパッドの取付	8
	安全ガードの取付	8
	刈刃の取付	9
始動・停止	燃料の給油	10
	始動のしかた	10
	停止	13
	エンジンの調整	13
作業の前に	肩掛バンドの掛け方	14
	肩掛バンドの調整	14
	緊急離脱	14
	操作の方法	15
日常の手入れ		17
50時間毎の手入れ		17
長期保管		19
故障の診断と処置		20

危険防止のために下記のような作業注意事項を守ってください。

1．安全ガードは必ず付けて作業してください。
2．作業中は半径15m以内に他の人を近づけないでください。
3．作業中、移動中は必ず肩掛バンド（ストラップ、ハーネス）を着用してください。
4．作業前に、刈刃にひび割れ、めくれ、まがり等の異常がないか点検し異常のある刈刃は絶対に使用しないでください。
5．作業中に刈刃が石などに当って衝撃を受けたときは、必ずエンジンを止めて刈刃の点検を行い、異常のある刈刃は使用しないでください。又、他の部分にも破損や曲がりがないか確認してください。確認後の運転でも、振動や音が大きくなっていないか注意してください。振動や音が大きくなった場合は破損や曲がりが考えられますので、作業を中止して部品交換をしてください。
6．給油の時は必ずエンジンを止めてください。
7．他の場所へ移動する時は必ずエンジンを止め、刈刃にカバーを付けてください。
8．安全作業のため下図の服装を参考にしてください。



9．緊急の場合、肩掛バンドの薄黄色のつまみ（緊急離脱装置）を上方に引くと刈払機は身体からはなれます。



安全作業のおねがい

安全な作業をしていただくために、必ず次の注意をお守りください。

暑熱、寒冷のとき

長時間の作業は避けてください。また雨の日は、滑りやすいので避けてください。

火気厳禁

1．ガソリンを使用しますので、刈払機のそばでタバコやたき火はやめてください。

2．燃料補給時には、必ずエンジンを停止してください。

作業前の点検

1．運転前に刈刃の締付けネジを確実に締めつけてください。

2．運転前に刈刃の「欠け」、「ひび割れ」、「まがり」などの異常がないか点検し、異常がある場合には絶対に使用しないでください。

3．刈刃を回転させて、異常な振動がないか調べてください。（異常な振動がある場合は、刈刃がカッタホルダにはまってないことがあります。）

4．刈刃締付ボルトがすり減ってスパナがかけにくいような場合には、必ず新品と交換してください。

作業中の注意

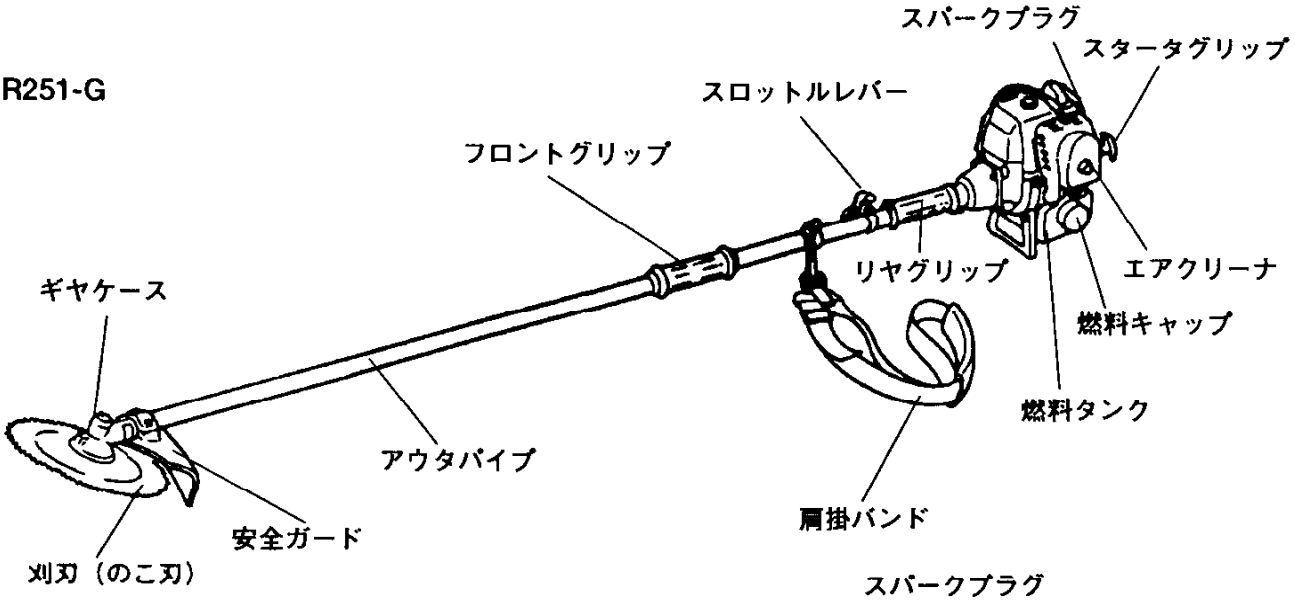
1．作業中は15ｍ以内に他の人を近づけないよう注意してください。

2．石の多いところ、電線、バラ線などのあるところは、刃先を当てないように注意して作業してください。もし、あやまって石などに刃先が当った場合は、必ずエンジンを停止して、刃先などに異常がないかを確認してください。

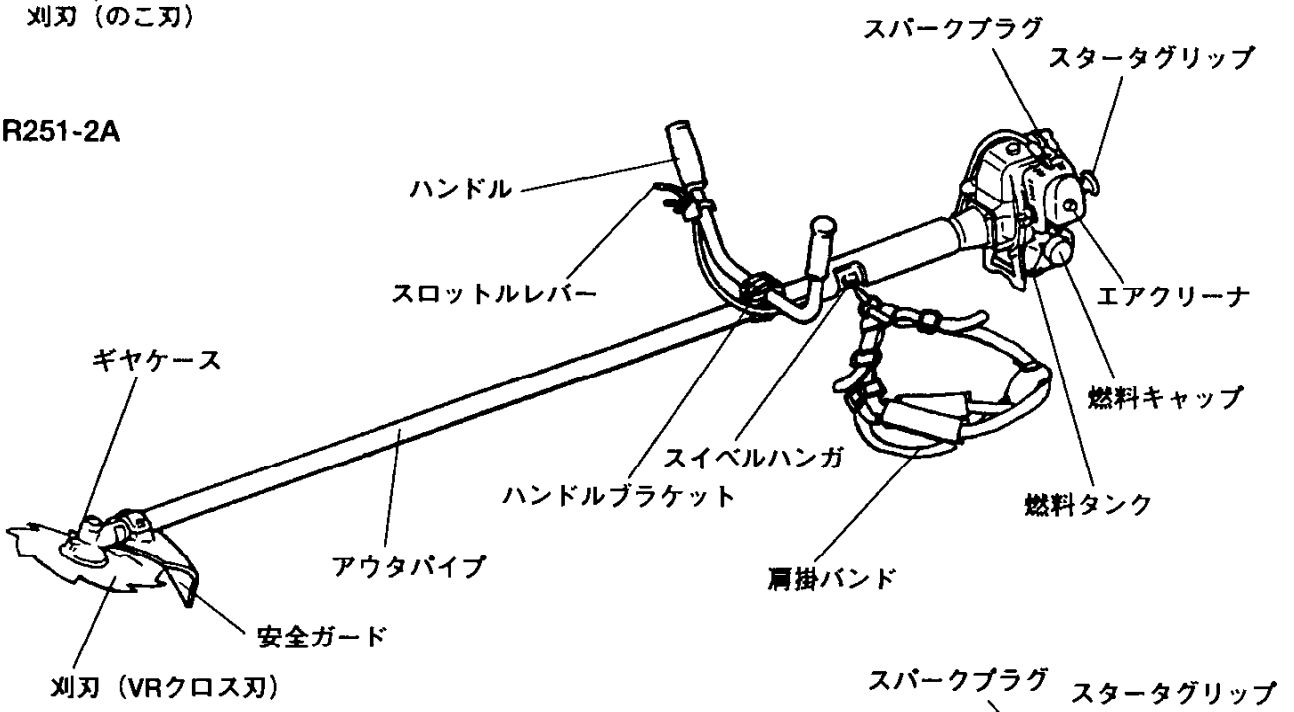
3．安全ガードをはずして作業することは、絶対にやめてください。

A． 各部の名称

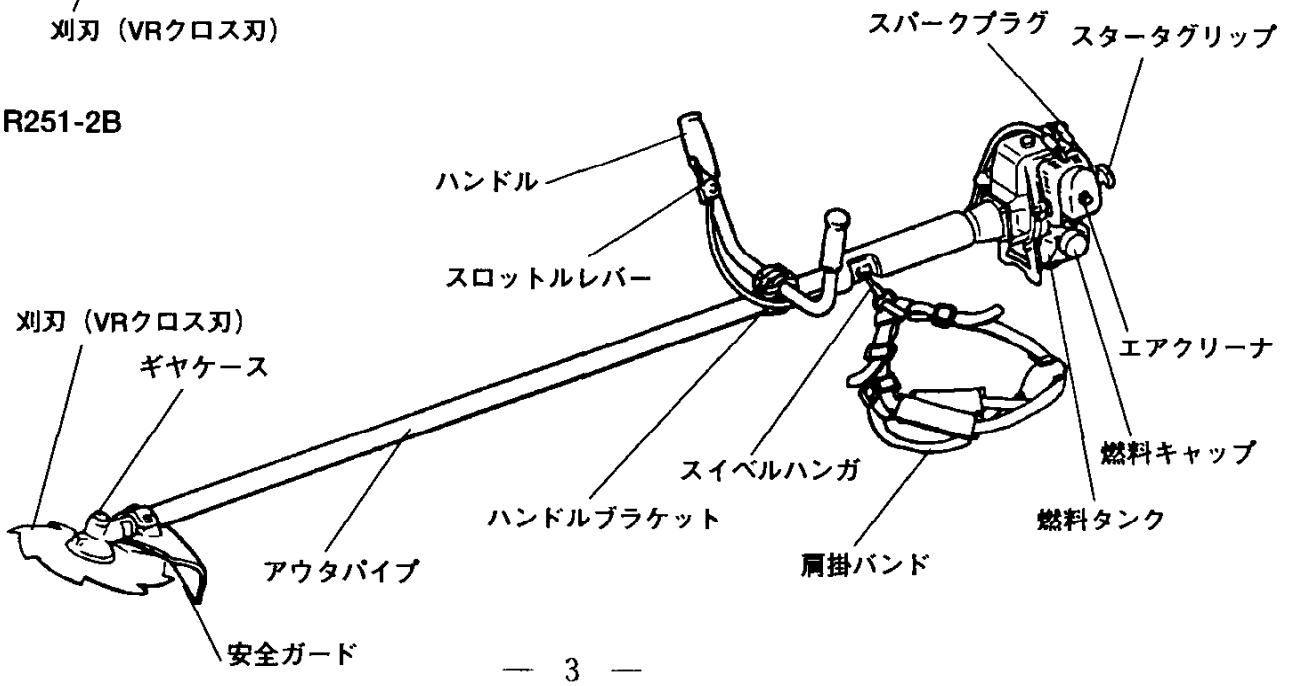
R251-G



R251-2A



R251-2B



B. 仕　様

項目＼モデル名		R251-G	R251-2A・R251-2B
動力伝達方法		自動遠心クラッチスパイラルギヤ	
減速比		1.36（19:14）	
刃先回転数（rpm）		5000rpm～8000rpm	
刃先回転方向		上から見て左	
本体乾燥重量		4.3kg	4.7kg
外形寸法（mm）（長さ×幅×高さ）		1735mm×200mm×225mm（刈刃なし）	1765mm×545mm×375mm（刈刃なし）
エンジン部	機種名	S251	
	形式	正立空冷2サイクルガソリンエンジン	
	総排気量	24.1cc	
	使用燃料	ガソリン25：2サイクル専用オイル1	
	燃料タンク容量	0.6ℓ	
	気化器	ダイヤフラム式	
	点火方法	電子点火	
	スパークプラグ	チャンピオンCJ8Y	
	始動方法	リコイルスタータ	
	停止方法	スイッチ式	
	エアークリーナ	半湿式	
標準装備		防振2グリップ（小径グリップ）	両手ハンドル
		逆引固定レバー	Wレバー（2A） 固定レバー（2B）
		刈刃脱落防止スライドピン	
		ストラップ（緊急離脱装置）	胸部着脱ハーネス（緊急離脱装置）
		安全ガード	
		付属工具一式	
		巻付防止カバー・刈刃カバー	

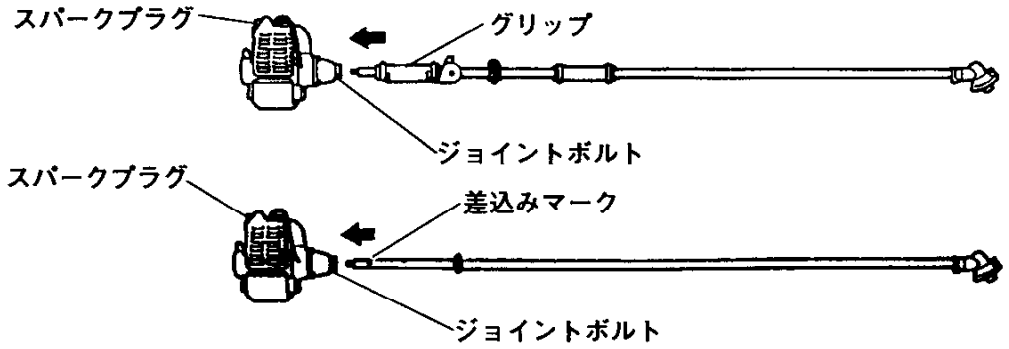
※本体乾燥重量は刈刃、安全ガード、背負いバンドを除く。
※仕様は予告なく変更することがあります。

C． 組立ての手順

エンジン、安全ガード、刈刃などは取りはずして梱包してありますので、次の要領で正しく組立ててください。

C-1．エンジンの取付け

スパークプラグが上になるように、エンジンを取付けてください。



1．エンジンのジョイントボルトをゆるめてください。

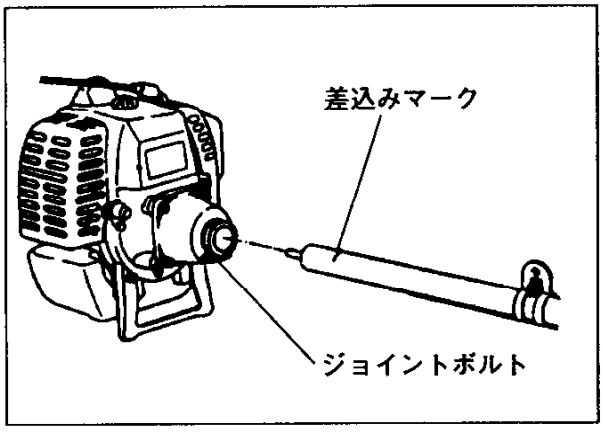
2．●R251-G（2グリップ）の場合

アウタパイプをグリップの端部までいっぱいに差込んでください。

●R251-2A、R251-2B（両手ハンドル）の場合

アウタパイプの「差込みマーク」まで差込んでください。

3．途中までしか差込めない場合は、軸どうしが当っているので、少し引抜き、位置をずらして再び差込んでください。



4．ジョイントボルトを確実に締めつけてください。

C-2．ハンドルの取付け

R251-G（ツーグリップタイプ）

アウタパイプにグリップが付いた状態になっていますのでこのままお使いください。

R251-2A・R251-2B（両手ハンドル）

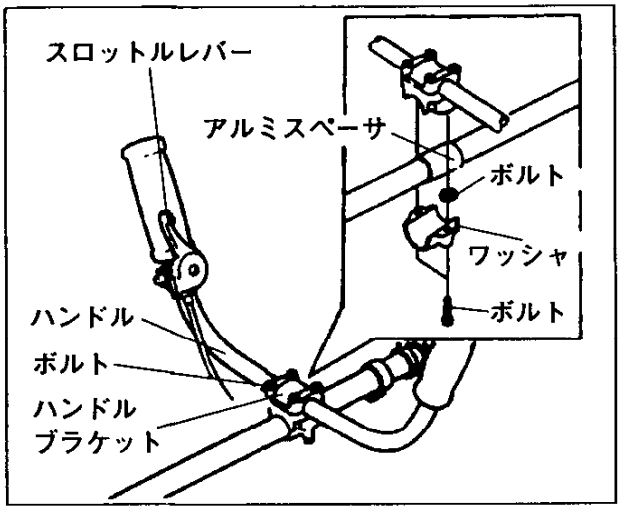
ハンドルは下記の要領で取付けてください。

1．ハンドルのロアキャップのボルトをゆるめて、ロアキャップをはずします。

2．ハンドルとロアキャップはアルミスペーサの位置で取り付けてください。

●ハンドルはスロットルレバーが右手側に位置するように取り付けます。

●ワッシャ（1枚）はハンドルとロアキャップの間に挟みボルトで締付けた後、もう一方を締付けます。



3．ハンドルは基準の位置に取付けてご使用ください。

●極端な位置でのご使用は、スロットルケーブルに損傷を招くことがあり、エンジン回転に影響を与える場合があります。必ず基準の位置でご使用ください。

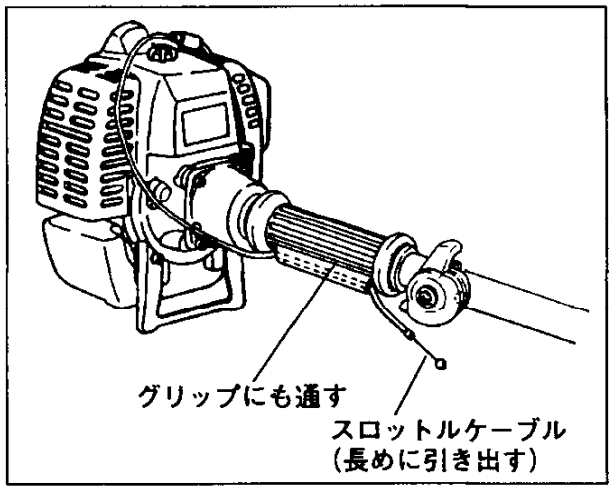
C-3．スロットルケーブルの取付け

スロットルケーブルは、エンジン側にはすでに取付けてありますので、刈払機本体側に組付けてください。

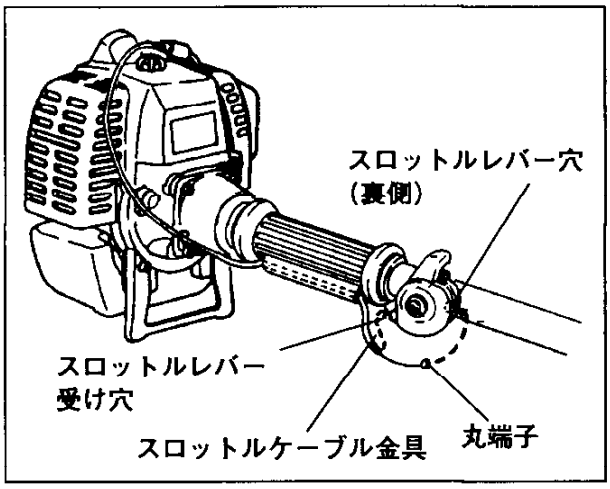
R251-G

1．図のようにエンジンのジョイント部分のケーブルホルダの穴にスロットルケーブルを通します。

2．次にグリップ横の穴にも通し、反対側に引出します。この時少し長めに引出した方がスロットルレバーへの取付けがやりやすくなります。



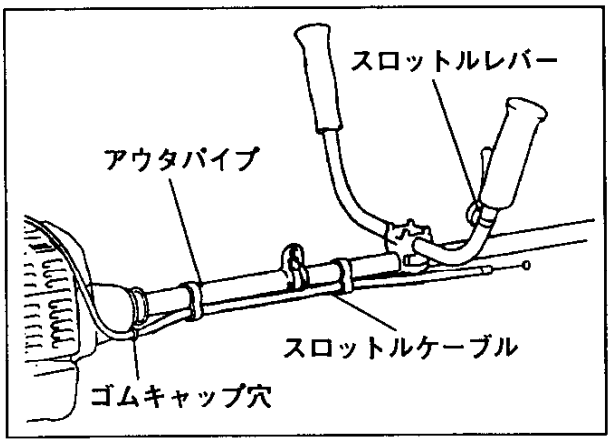
3．スロットルレバーの穴に、スロットルケーブル先端の丸端子を入れ、太い部分の金具を受けの穴に入れます。この時スロットルレバーは全閉位置にしておいてください。



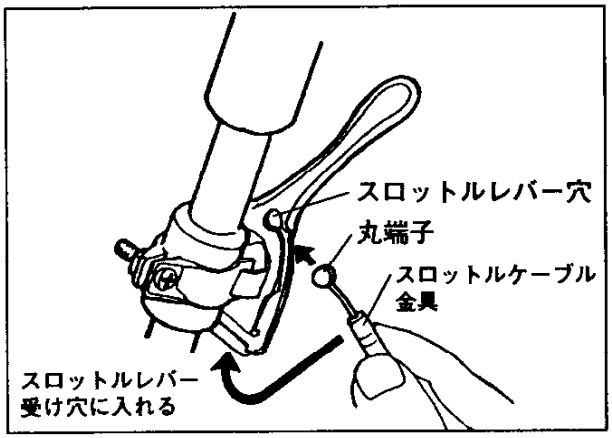
R251-2A・R251-2B

1．図のようにエンジンのジョイント部分のケーブルホルダにスロットルケーブルを通します。

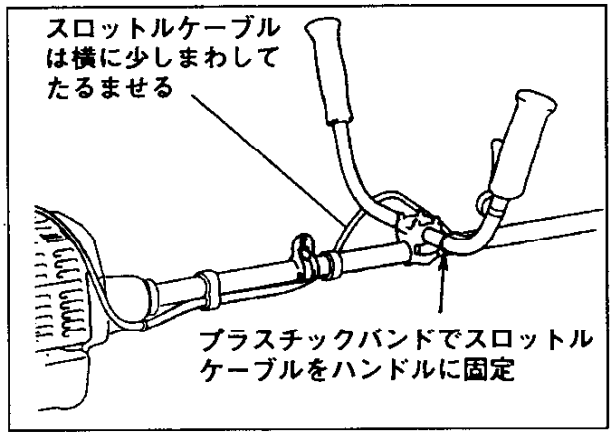
2．アウタパイプに沿ってハンドル方向に、スロットルレバーの位置に届くよう長く引出します。(アウタパイプのバンドの穴にスロットルケーブルを通します。)



3．スロットルレバーの穴に、スロットルケーブル先端の丸端子を入れ、太い部分の金具を受けの穴に入れます。

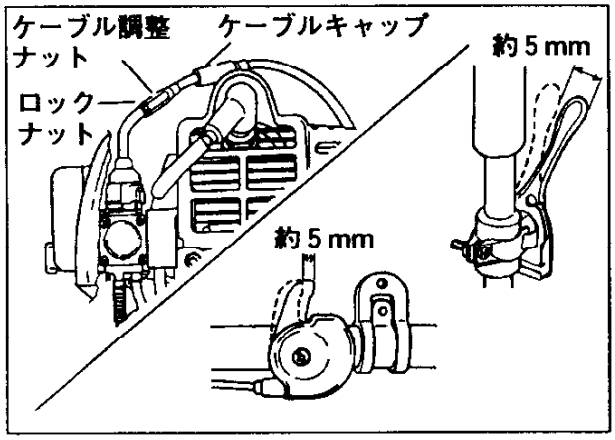


4．ツールバッグの中に入っている、細いプラスチックバンドでスロットルケーブルをハンドルに固定してください。



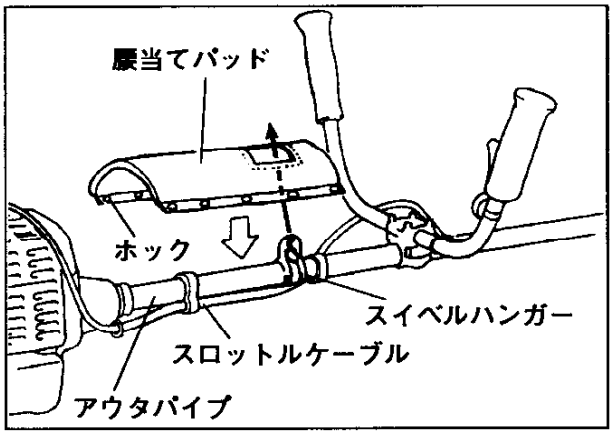
スロットルケーブルのあそび調整

スロットルケーブルのあそび調整は、ケーブルキャップを図のようにずらし、スロットルレバー先端のあそびが約5mmになるように、ケーブル調整したあと、ロックナットで固定します。
調整後は、ケーブルキャップを元の位置に戻してください。



C-4．腰当てパッドの取付け（R251-2A・R251-2B）

腰当てパッドはアウタパイプとケーブルを包むように巻付け、ホックで止めます。この時、パッドの四角穴からスイベルハンガを出してください。

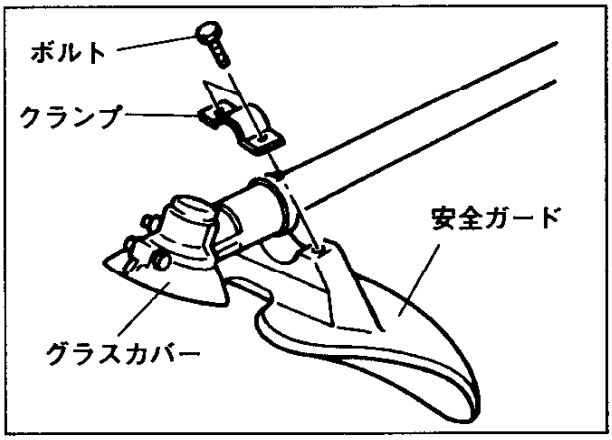


C-5．安全ガードの取付け

1．安全ガードをアウタパイプの下から、クランプをアウタパイプの上から合わせます。この時、ギヤケース取付ねじ部にガードを合わせます。

2．ナットは安全ガードに組みつけてありますので、ボルトをクランプ側から締付けます。

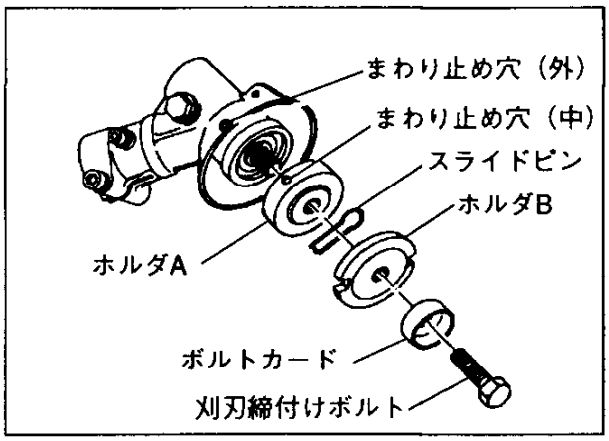
3．安全ガードに「ガタ」がないか確認してください。



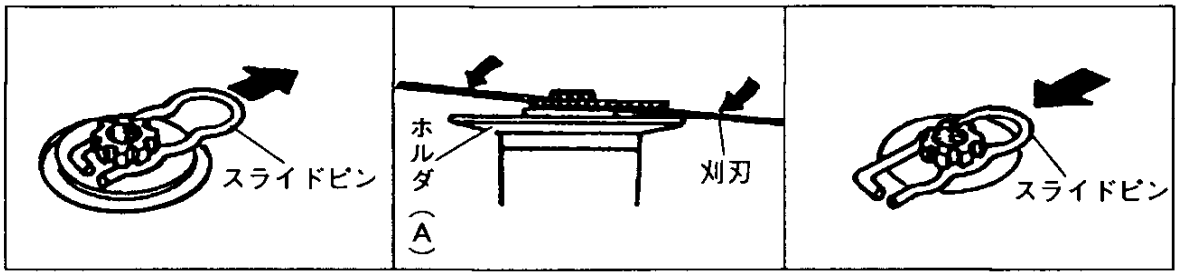
C-6．刈刃の取付け

刈払機全体を逆さまに置くと、刈刃が取り付け易くなります。

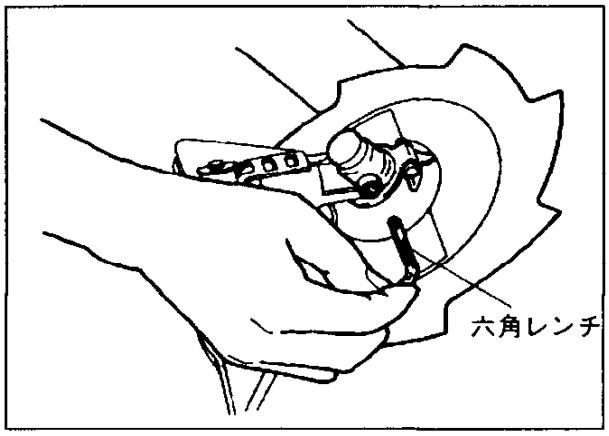
1．刈刃締付けボルト（左ねじ）を時計回りに回わして抜き取ります。



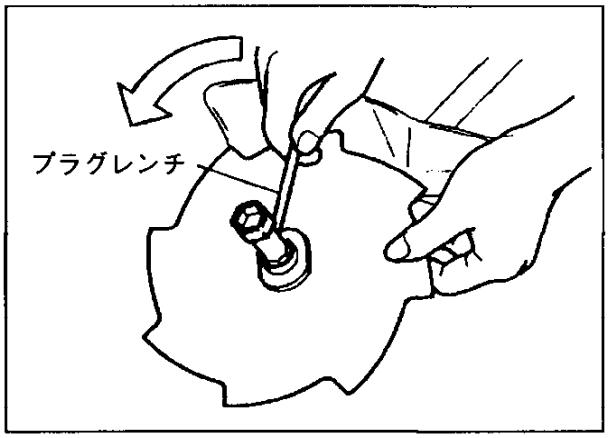
2．ホルダBをはずし、スライドピンを横にずらし（軸からはずさない）、刈刃を少し斜めにして、スライドピンとホルダAの間に差し入れます。次に、スライドピンを元にもどします。



3．ホルダB、ボルトガード、刈刃締付ボルトを取り付けた後、図のように、六角レンチを外と中の2つのまわり止め穴に通してロックします。（中の穴は、いちばん奥のギヤケースの穴まで六角レンチを差込んでください。）



4．次にプラグレンチで強く締付けます。（時計回りと反対方向が締付け方向です。）



D． エンジンの始動、停止、調整

D-1．燃料の給油（混合燃料）

燃料はガソリン25に対してオイル１の割合で混合して給油してください。

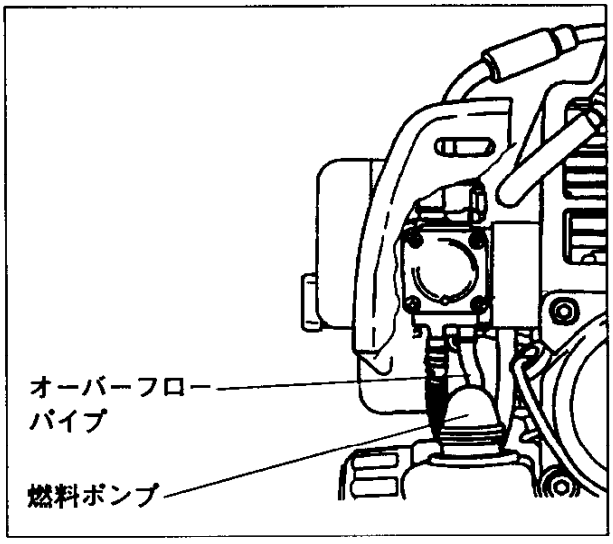
注）１．オイルは必ず２サイクル専用オイルを使用してください。
２．燃料補給や混合する場合は、火気のないところでおこなってください。
３．エンジンが始動すると、回転刃がまわります。思わぬ事故が起きぬよう必ず周囲の安全確認をしてください。

D-2．始動のしかた

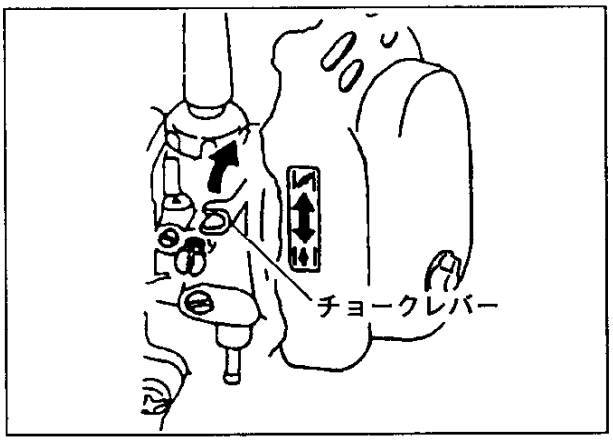
始動すると刈刃がまわりますので、まわりに障害物や人がいないか安全確認をしてください。

１．エンジンが冷えている時。

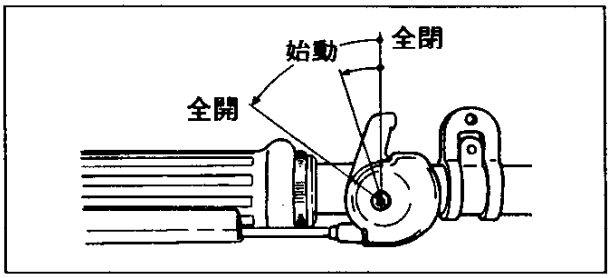
1 燃料タンクの上に付いている燃料ポンプ（透明の半円形）を数回押し、オーバフローパイプに燃料が流れはじめ、泡が少なくなったらやめてください。

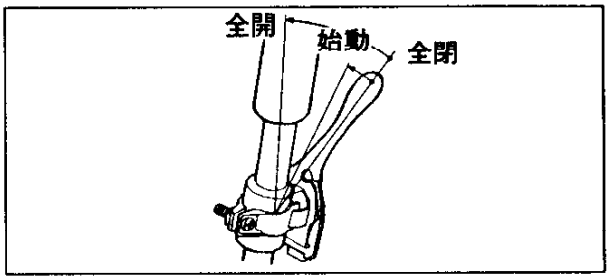


2 チョークレバーを“閉〔⊬マーク〕”にします。

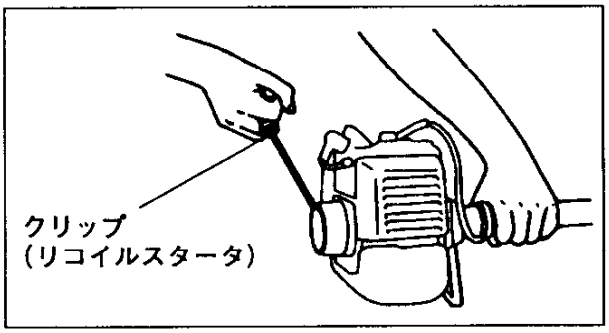


3 スロットルレバーは全閉または始動の状態にします。





4 図のように左手でグリップを押さえて、リコイルスタータを引く。ツメがかかるまではゆっくり引き、かかって重くなった位置から強く引きます。



注）始動時にスタータロープを最後まで引くとロープの寿命が短くなりますので、できるだけ最後まで引かないようにしてください。圧縮が利いて重くなった位置から勢い良く引けば容易に始動します。

5 爆発音がしエンジンが始動したら、チョークを徐々に開|||マークに戻してください。

- ●チョークを戻しきらないうちに停止した場合は、チョークを再度閉〔|/|マーク〕にして再始動してください。
- ●爆発音がしてすぐに停止した場合はチョークを開に戻し、再びリコイルスタータを引いて始動してください。

6 エンジンが始動したら、すぐにスロットルレバーを全閉位置に戻してアイドリング回転の状態にしてください。

2～3分アイドリング状態で暖機運転をしてください。

2．エンジンが暖っている時

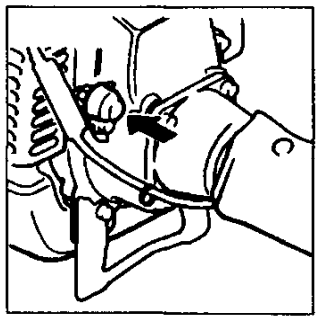
3 4 6 で始動します。

3．燃料切れで燃料を補給した時（又は始動しにくい時）

1 3 4 6 で始動します。

D-3．停　　止

エンジンが停止するまで、押しボタンスイッチを押し続けて下さい（途中ではなすとエンジンは止まりません)。



D-4．エンジンの調整

エンジンを始動させて、２～３分低速で暖機運転をした後に調整してください。

1．アイドリング調整

スロットルレバーをもどしたとき、安定して回転するようにアイドリング調整してください。

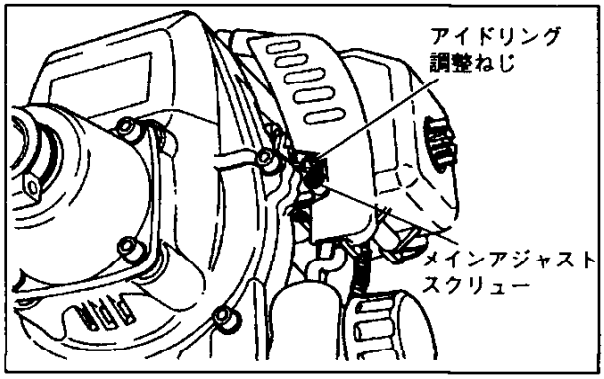
アイドリング調整ねじを［右に回すと→回転が速くなる／左に回すと→回転が遅くなる］

注）アイドリングのとき、クラッチが切れて回転刃の回転が止まるようにしてください。

2．高速の調整

	標準開度
メインアジャストスクリュー	2 ±¼回戻

標準開度は、調整ねじを静かに一杯に締めこんだところからの戻し回数です。



注）これら開度の調整はむつかしいですから、不調の場合は当社指定特約店に依頼してください。

E． 作業の前に

E-1． 肩掛バンドの掛け方

肩掛けバンドのフックが体の右側に来るようにして、バンドを体に慣じませてください。





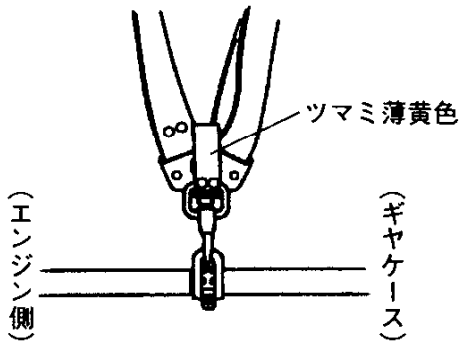
E-2． 肩掛バンドの調整

無理なくハンドルのグリップが握れる様に肩掛バンドの長さを調整してください。



E-3． 緊急離脱

緊急の場合、黄色のつまみを上方に強く引くと刈払機は身体から離れます。



E-4．操作の方法

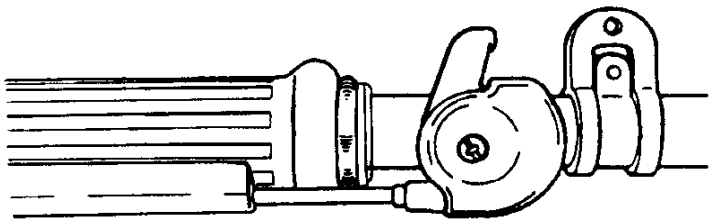
1．エンジンを始動させ、スロットルレバーを引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に回転刃が回転をはじめます。

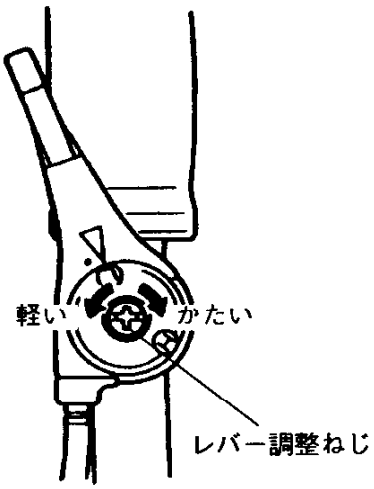
2．スロットルレバーを全閉位置に戻せばクラッチが切れ、エンジンはアイドリング（無負荷低速）状態になります。

スロットルレバーの調整　R251-G・R251-2Bの場合

スロットルレバーがひとりでに戻らないよう、適当なかたさにレバー調整ネジを調整してください。

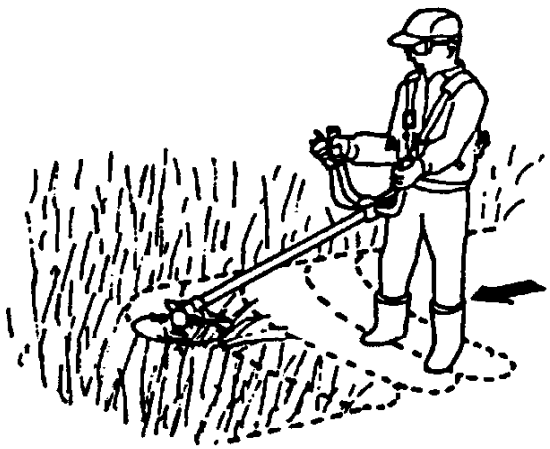
レバー調整ねじを
- 右に回すと→レバー操作がかたくなる
- 左に回すと→レバー操作が軽くなる



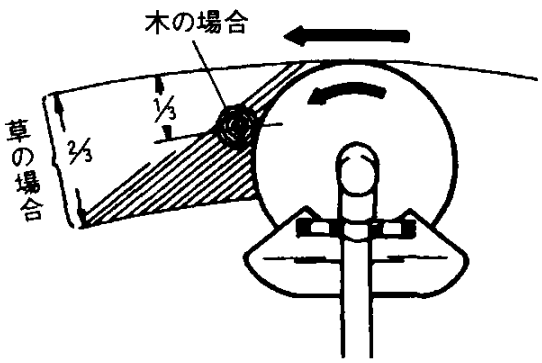


3．刈刃の回転方向は左廻りですから、右側から左側に寄せるように刈ると能率的です。

（刈取った草は左側に寄せられますので、広い面積を刈るときには、左側から前進すると刈取った草が次の列を刈るときに邪魔にならず、能率的に作業がすすめられます。



4．刈刃の切れ味は、先端から⅓あたりが最高です。のこ刃で木を切る場合などは⅓の位置を使い、草などを刈る場合は先端から⅔の範囲を使うようにすれば刈り残しがありません。



5．草や木を切らない状態でスロットルレバーをいっぱいに引きますと、エンジンは空ぶかし（無負荷高速）になり、エンジンや刈払機本体のシャフトを破損させる原因となりますので注意してください。

6．クラッチがつながって刈刃が回転していても、低速にしすぎると共振現象による振動を感じることがあります。この状態で作業をしますと、クラッチの摩耗を早めます。又、草なども巻きつきやすいので、もう少し回転を上げて使用してください。

注）1．木を切るときには、強く当てないで徐々に切込んでください。
2．作業中は半径15m以内に他の人を近づけないよう注意してください。
3．作業中の飛散物から作業者を守るため、必ず安全ガードを取付けてください。
4．運搬のときは必ず刈刃にカバーをかけてください。

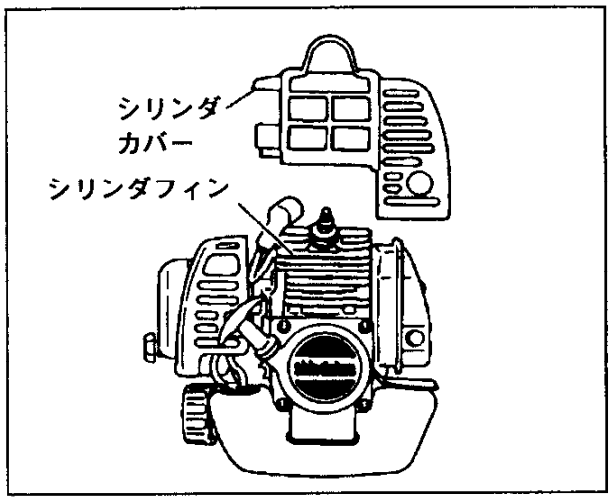
F．手入れと調整

F-1．日常の手入れ

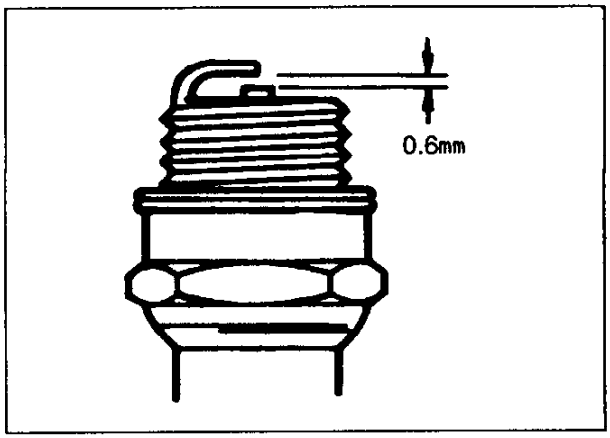
1．刈払機全体の草やホコリを取り除いてください。特に冷却空気の通り路や、エアクリーナ部分の付着物に気をつけましょう。
2．各締付部のボルトゆるみ、あるいは部品の脱落、破損、変形がないかを良く調べてください。(特に刈刃のボルトは、作業前には必ず締付けを確認してください)。
3．燃料やグリースのもれがないか点検してください。
4．ギヤケース廻りに草の巻付きがないか点検してください。

F-2．50時間毎の手入れ

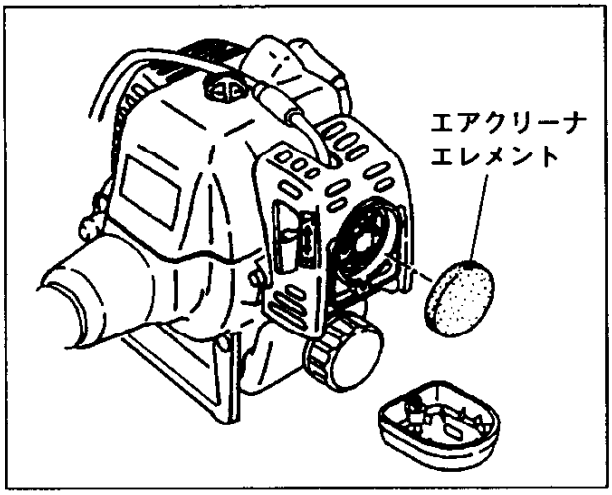
1．シリンダカバーを外し、シリンダフィンやシリングカバーについている草やゴミを取り除いてください。組付けるときは、元どうりにキチンとはめてください。



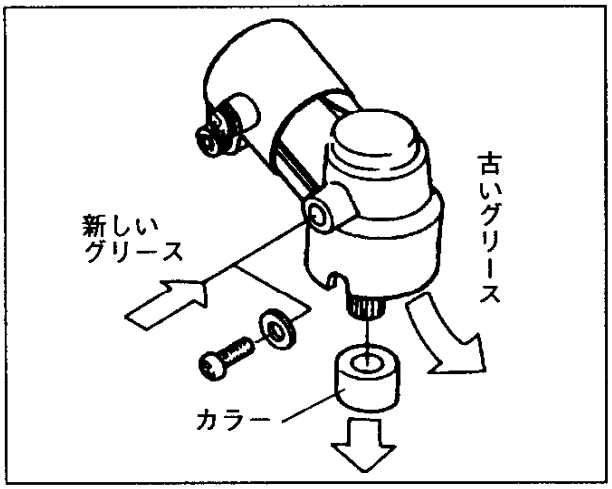
2．スパークプラグを外し、汚れを落として、すきまの調整をしてください。すきまは0.6㎜（ハガキ３枚の厚さ）が適当です。スパークプラグを交換するときは、当社指定の純正品をお使いください。



3．キャブレタからエアクリーナエレメントをはずして、混合燃料でよく洗い、絞ってから取付けてください。



4．ギヤケースの中にグリースを補給してください。ギヤシャフトのカラーを抜いてグリースを補給すると古いグリースは押し出されます。（グリースはギヤケース用純正グリースを必ず使用してください。）

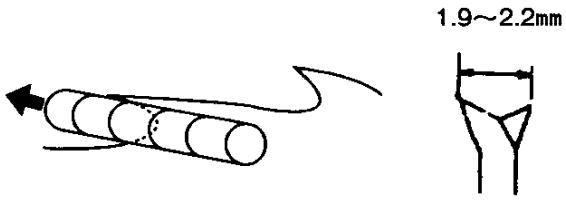


5．フューエルタンク内の燃料フィルタを洗浄してください。又、汚れがひどい場合は交換してください。

6．刈刃の正しい目立て

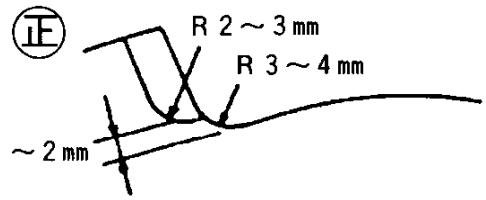
(1) 笹刈刃の場合

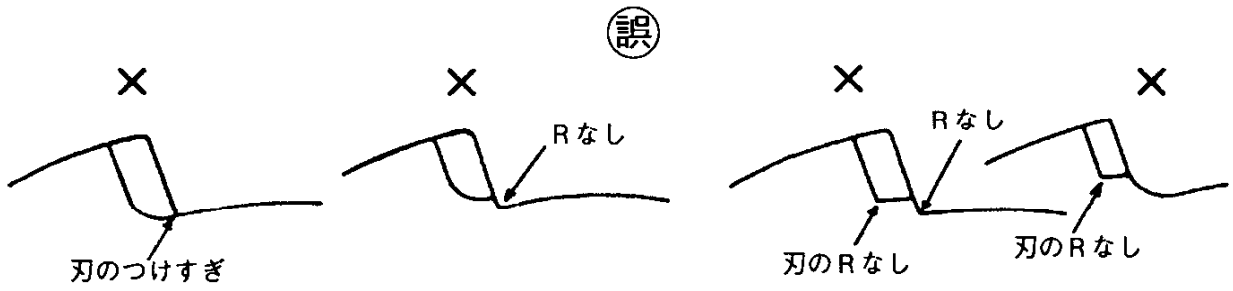
■歯のつけ根から刃先に向けて丸やすりで研いてください。あさりを表裏均等につけてください。



(2) VRともえ刃の場合

■歯のつけ根は必ず丸やすりで
まるみをつけてください。





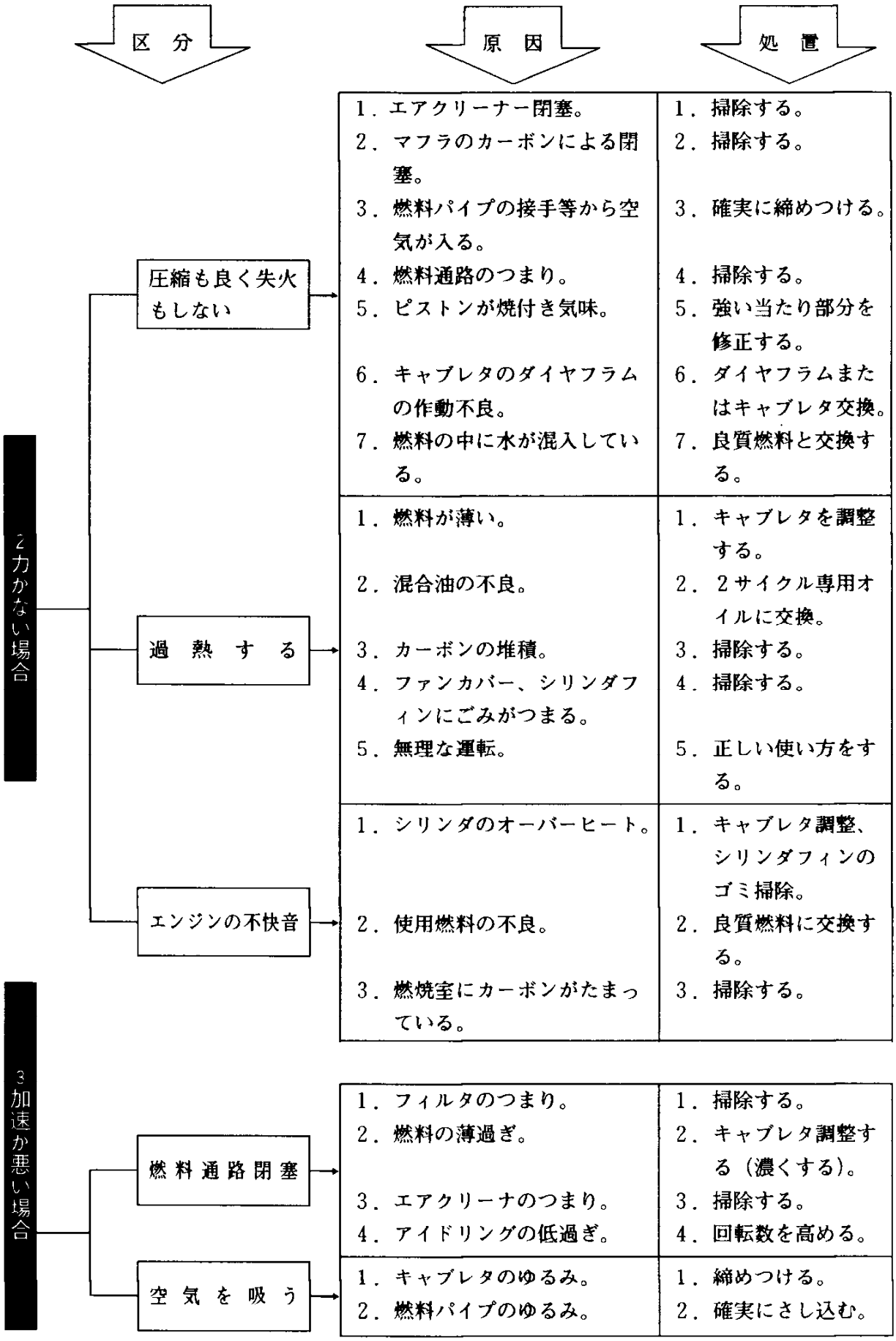
G. 長期保管

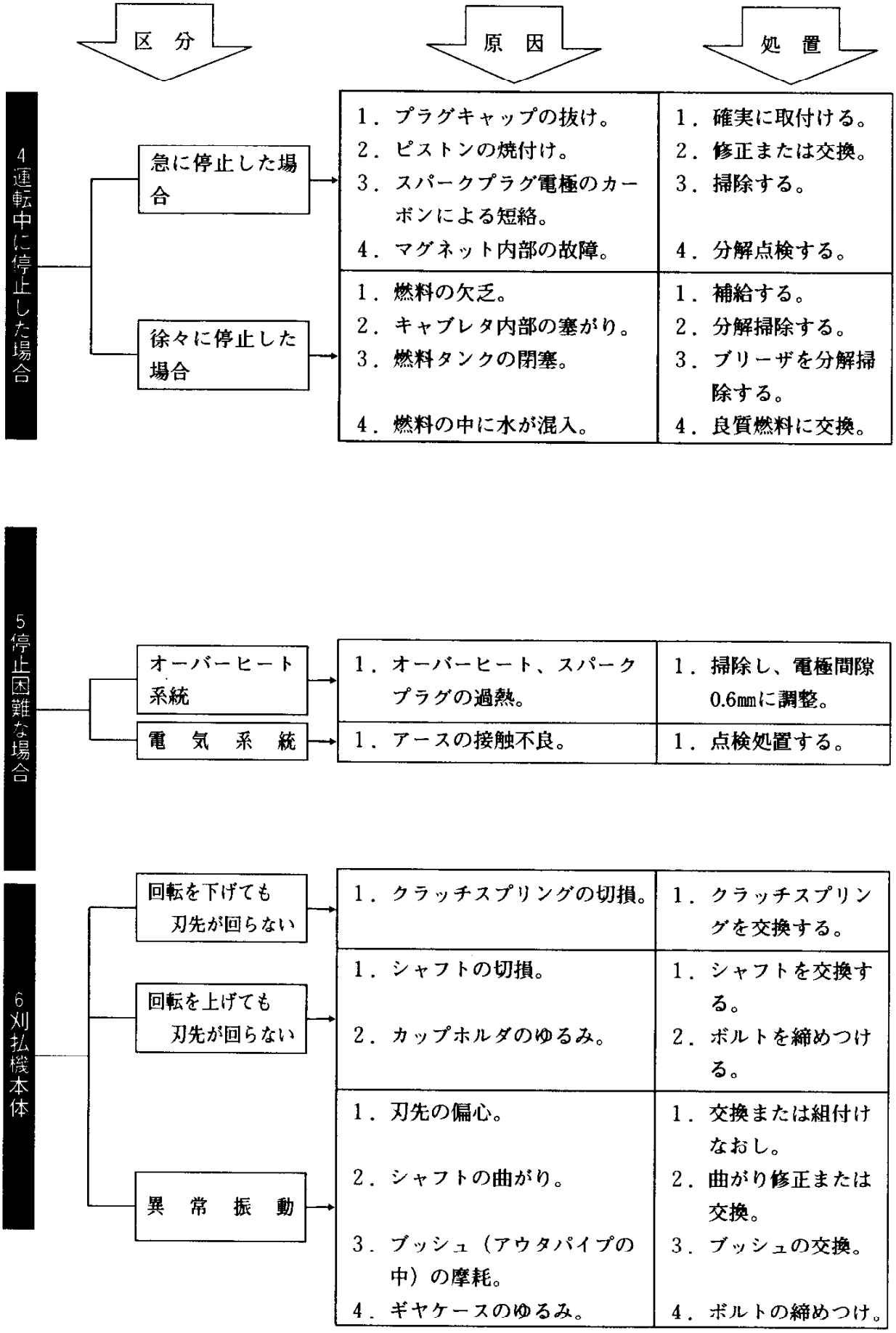
長時間使用せずに保管する場合は、次の要領で保管してください。

1. 各部は十分に清掃し、金属部分には薄くオイルを塗ってサビを防いでください。
2. 燃料タンクとキャブレタの燃料を全部排出してください。
   手順としては、まず燃料タンク内の燃料を排出します。次に燃料タンクの上の燃料ポンプを７～８回押すと、キャブレタ内の燃料がぬけて燃料タンク内に流れ出しますので、これも燃料タンクから排出してください。
3. スパークプラグの穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込みオイルがゆきわたるように２～３回リコイルスタータを引いて圧縮のあるところで止めてロープをもどしてください。
4. 損傷箇所がある場合には、修理してから保管しましょう。
5. 湿気のないところ、ゴミやホコリの付かない所に格納してください。
6. 刈刃ははずして目立てをし、うすくオイルを塗って保管しましょう。

H. 故障の診断と処置

区分		原因	処置
1エンジンが始動しない場合	スパークフラグに火が飛はない	スイッチ	1．スイッチが故障している。	1．良品に交換する。
		スパークプラグ	1．電線がぬれている。	1．乾燥させる。
			2．電極にカーボンがたまっている。	2．掃除する。
			3．碍子のキレツ等による絶縁不良。	3．良品に交換する。
			4．電極間隙の過小または過大。	4．0.6㎜に調整。
			5．電極の焼損。	5．良品に交換する。
		マグネト	1．コイルが断線している。	1．良品に交換する。
			2．コイルの絶縁不良。	2．良品に交換する。
			3．コード被覆の切損。	3．交換または補修。
	スパークフラクに火が飛ぶ	圧縮も良好で燃料もくる	1．燃料の吸い過ぎ。	1．リコイルスタータにて外部に放出する。
			2．燃料の濃過ぎ。	2．キャブレタを調整する。
			3．不良燃料の使用。	3．良質燃料と交換する。
		燃料はくるが圧縮不良	1．シリンダ・ピストン・ピストンリングの摩耗。	1．交換する。
			2．スパースプラグがゆるんでいる。	2．締めつける。
		キャブレタに燃料がこない	1．燃料タンクに燃料がない。	1．補給する。
			2．燃料パイプ・キャブレタの取付けがゆるんでいる。	2．締めつける。
			3．フィルタがつまっている。	3．清掃または交換する。
			4．燃料タンクに燃料があるがキャブレタにこない。	4．始動の項参照。
			5．ブリーザ通気孔の閉塞。	5．掃除する。


区分
原因
処置
2 力がない場合
圧縮も良く失火もしない
1．エアクリーナー閉塞。
2．マフラのカーボンによる閉塞。
3．燃料パイプの接手等から空気が入る。
4．燃料通路のつまり。
5．ピストンが焼付き気味。
6．キャブレタのダイヤフラムの作動不良。
7．燃料の中に水が混入している。
1．掃除する。
2．掃除する。
3．確実に締めつける。
4．掃除する。
5．強い当たり部分を修正する。
6．ダイヤフラムまたはキャブレタ交換。
7．良質燃料と交換する。
過熱する
1．燃料が薄い。
2．混合油の不良。
3．カーボンの堆積。
4．ファンカバー、シリンダフィンにごみがつまる。
5．無理な運転。
1．キャブレタを調整する。
2．2サイクル専用オイルに交換。
3．掃除する。
4．掃除する。
5．正しい使い方をする。
エンジンの不快音
1．シリンダのオーバーヒート。
2．使用燃料の不良。
3．燃焼室にカーボンがたまっている。
1．キャブレタ調整、シリンダフィンのゴミ掃除。
2．良質燃料に交換する。
3．掃除する。
3 加速が悪い場合
燃料通路閉塞
1．フィルタのつまり。
2．燃料の薄過ぎ。
3．エアクリーナのつまり。
4．アイドリングの低過ぎ。
1．掃除する。
2．キャブレタ調整する（濃くする）。
3．掃除する。
4．回転数を高める。
空気を吸う
1．キャブレタのゆるみ。
2．燃料パイプのゆるみ。
1．締めつける。
2．確実にさし込む。


区分
原因
処置
4 運転中に停止した場合
急に停止した場合
1．プラグキャップの抜け。
2．ピストンの焼付け。
3．スパークプラグ電極のカーボンによる短絡。
4．マグネット内部の故障。
1．確実に取付ける。
2．修正または交換。
3．掃除する。
4．分解点検する。
徐々に停止した場合
1．燃料の欠乏。
2．キャブレタ内部の塞がり。
3．燃料タンクの閉塞。
4．燃料の中に水が混入。
1．補給する。
2．分解掃除する。
3．ブリーザを分解掃除する。
4．良質燃料に交換。
5 停止困難な場合
オーバーヒート系統
1．オーバーヒート、スパークプラグの過熱。
1．掃除し、電極間隙0.6㎜に調整。
電気系統
1．アースの接触不良。
1．点検処置する。
6 刈払機本体
回転を下げても刃先が回らない
1．クラッチスプリングの切損。
1．クラッチスプリングを交換する。
回転を上げても刃先が回らない
1．シャフトの切損。
2．カップホルダのゆるみ。
1．シャフトを交換する。
2．ボルトを締めつける。
異常振動
1．刃先の偏心。
2．シャフトの曲がり。
3．ブッシュ（アウタパイプの中）の摩耗。
4．ギヤケースのゆるみ。
1．交換または組付けなおし。
2．曲がり修正または交換。
3．ブッシュの交換。
4．ボルトの締めつけ。

新ダイワ工業株式会社

本 社 〒731-15 広島県山県郡千代田町新氏神35 ☎0826-72-6011(代)

札幌営業所	〒065	北海道札幌市東区北33条東17丁目4−17	☎011−783−7551
旭川事務所	〒070	北海道旭川市5条16丁目左10号	☎0166−23−7520
仙台営業所	〒983	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22−45	☎022−239−1688
郡山出張所	〒963-01	福島県郡山市安積町2丁目341−1	☎0249−45−8678
盛岡出張所	〒020-01	岩手県盛岡市月が丘1丁目26−52	☎0196−41−3416
東京営業所	〒134	東京都江戸川区中葛西6丁目17−8	☎03−3687−5771
千葉事務所	〒260	千葉県千葉市中央区星久喜町1115−2	☎043−263−9901
多摩出張所	〒191	東京都日野市日野台2丁目40−29	☎0425−86−7551
横浜出張所	〒222	神奈川県横浜市港北区篠原西町34−33	☎045−431−7786
静岡営業所	〒422	静岡県静岡市西脇476	☎054−282−7012
大宮営業所	〒330	埼玉県大宮市吉野町1丁目19−4	☎048−666−2521
小山出張所	〒323	栃木県小山市大字稲葉郷350番地1	☎0285−22−7808
前橋出張所	〒371	群馬県前橋市上小出町2丁目46−3	☎0272−34−5956
長野出張所	〒381	長野県長野市吉田5丁目24−16	☎0262−44−3970
新潟出張所	〒950	新潟県新潟市竹尾4丁目11−5	☎025−275−5616
名古屋営業所	〒454	愛知県名古屋市中川区小本本町1−75	☎052−362−2281
津事務所	〒514	三重県津市大字半田池町590−5	☎0592−27−2716
岐阜出張所	〒500	岐阜県岐阜市宇佐南4丁目2−4	☎058−271−4015
大阪営業所	〒556	大阪府大阪市浪速区桜川4丁目11−20	☎ 06−561−8484
和歌山事務所	〒640	和歌山県和歌山市六十谷1234−7	☎0734−62−7277
京都出張所	〒601	京都府京都市南区吉祥院前河原町1	☎075−321−0141
姫路出張所	〒670	兵庫県姫路市西今宿5丁目5−4	☎0792−98−1250
金沢出張所	〒920	石川県金沢市諸江町中丁344	☎0762−37−1230
松山出張所	〒790	愛媛県松山市久万ノ台223	☎0899−22−8886
高松営業所	〒761-01	香川県高松市春日町片田1638−7	☎0878−43−1201
徳島事務所	〒770	徳島県徳島市中昭和町5丁目51−2	☎0886−22−8183
高知事務所	〒780	高知県高知市南宝永町4−12	☎0888−83−7255
広島営業所	〒730	広島県広島市中区江波南2丁目10−23	☎082−293−7600
米子事務所	〒683	鳥取県米子市旗ケ崎2丁目8−1−108号	☎0859−34−7822
防府事務所	〒747	山口県防府市栄町2丁目2−29	☎0835−24−3424
岡山出張所	〒700	岡山県岡山市西長瀬261−104	☎086−241−3013
福岡営業所	〒812	福岡県福岡市博多区上牟田3丁目5−22	☎092−411−9801
諫早事務所	〒854	長崎県諫早市小船越町1021−3	☎0957−23−3341
小倉出張所	〒803	福岡県北九州市小倉北区高峰町10−8	☎093−561−3422
大分事務所	〒870-01	大分県大分市高城南町7−13	☎0975−52−1745
熊本出張所	〒862	熊本県熊本市健軍本町7−17	☎096−365−0484
鹿児島営業所	〒890	鹿児島県鹿児島市宇宿2丁目23−18	☎0992−57−6801
宮崎出張所	〒880	宮崎県宮崎市霧島5丁目59	☎0985−23−2126

22495−93110(1-9409) Ⓝ